# いわての農地と水路づくりの物語

## 農業農村整備『紙芝居』の紹介②

農林水産部農村計画課

農業農村整備紙芝居は、郷土の先人達が築き上げてきた農地や農業用水の開発の歴史を、次代を担う子どもたちに伝え、ふるさとへの愛着や施設への愛護心を持ってもらおうと、岩手県農林水産部が平成12年から取り組んでいるものです。

現在は、全11話をそろえ、毎年、小学校の出前授業や「いわて環境王国展」などの各種イベントで上演し、好評をいただいています。

このコーナーでは5話（毎回1話）に分け、農業農村整備紙芝居の内容を簡単に御紹介します。第2回目となる今回は、北上市更木地域の水路にまつわる「仁兵衛堰ものがたり」です。はじまり、はじまり～。

①そのむかし、現在の北上市更木地域は、山からの少ない沢水で米を作っていました。日照りが続くと水は枯れ、村人は飢えと病気に苦しんでいました。

②村人は、村一番のお金持ちである仁兵衛に相談しました。「今年も米はとれそうもねぇ。みんな飢えて死んじまう。仁兵衛さん、何とかしてけろぉ･･･」

③仁兵衛は、私財を売って資金にし、田んぼに水を引く工事をしたいと妻に相談しました。仁兵衛の誠実さに心を打たれた妻も協力を決意するのでした。

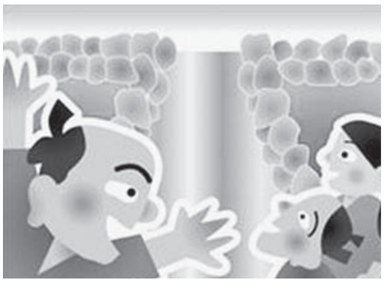
④仁兵衛はさっそく村人を集め、猿ヶ石川に取水堰を造る計画を話しました。「金はおらがなんとかすっから、みんなも工事に参加してけろ！」

⑤着工するも、あまりの重労働に音を上げる村人もいました。仁兵衛は必死に説得するのでした。「おら達の子孫のためだ。何とか踏ん張ってけろ！」

⑥2年後、いよいよ堰の完成。ところが、流れてきた水はチョロチョロとわずかばかり･･･。落胆する村人に、仁兵衛は申し訳なさでいっぱいでした。

⑦「あきらめずに最後までやるべ！」途方に暮れる仁兵衛に妻が言うと、周囲の村人も「仁兵衛さん、もう一度踏ん張るべ！」と集まってきました。

⑧そして工事の再開。一心不乱に工事を進める姿を見て、一度は現場から去った村人達も戻ってきました。「おら達にも、もう一度手伝わさせてけろ！」



⑨１年後、ついに堰の完成。「ひゃ～、水がきたぞ～！これで米っこがいっぱいとれるぞ～。仁兵衛さん、あんだのおかげだぁ！」村人は歓喜しました。

⑩仁兵衛は完成した堰に舟を浮かべ、村人から労のねぎらいを受けました。その後、この堰は「仁兵衛堰」と呼ばれ、今でも大切に守り継がれています。

お問い合わせ
岩手県農林水産部農村計画課
電話：019-629-5666

・農業農村整備紙芝居は下記ホームページでも閲覧できます。
岩手県公式サイト → 農業農村紙芝居 でサイト内検索
・モバイル版は右のバーコードからアクセスできます。